

12月13日（火）県立八日市養護学校を訪問しました！

対談テーマ

特別支援教育の在り方について

児童生徒一人ひとりの発達や障害等に応じた教育実践と「地域で共に生きていくための力」を育むためのインクルーシブ教育システム構築に向けた取組を見聞し、これからの特別支援教育の在り方について対談しました。

訪問した委員

岡崎 正彦 委員 野村 早苗 委員



県立八日市養護学校について



自立した社会生活を目指して、児童生徒が各々の個性を生かし、持てる力を発揮できるように、一人ひとりに応じた教育を行っています。知的障害と肢体不自由の子どもたちが在籍し、小学部、中学部、高等部を設置しています。「地域で共に生きていくための力」を育むためのインクルーシブ教育システム構築に向けた取組にも積極的に取り組んでいます。

意見交換より



委員：学校と放課後等デイサービスの連携はどうしているのか。

学校：保護者に許可をもらって、その日の子どもの様子をデイサービスの職員に伝えている。また、適宜ケース会議を開催するなどして、よりよい支援のあり方などをデイサービスの職員と話し合っている。

委員：災害時に適切に避難誘導するには、校舎などの環境や、子どもたちを誘導する体制が重要ではないか。

学校：先日開催した学校運営協議会では、防災に関する意見があった。また、避難訓練は、定期的に取り組んでいる。

委員：障害の程度や状況が様々である子どもたちがいる学校で、子ども同士のトラブル時はどのように対応しているのか。

学校：その都度、子どもたちの個々の特性を踏まえながら寄り添い、思いを聞いている。また、保護者には情報共有を行い、より丁寧に継続的な対応を心がけている。

委員：個別に対応している間、他の子どもたちにはどのように対応しているのか。

学校：複数の教職員がいるため、状況に応じて、役割分担をして対応している。